

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373800386		
法人名	社会福祉法人 千寿福社会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム百		
所在地	岡山県久米郡美咲町書副180-4		
自己評価作成日	平成25年 1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3373800386-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成25年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御家族、御本人がどこよりも此処で暮らせて良かったと思っ頂けるケアを目指し人生の先輩である事を念頭に置き、言葉遣いにも配慮し今のこの一時を何よりも大切にしたいケアを実践したいと考えている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津山市の(福)鶯園のグループの一つである(福)千寿福社会は障害者福祉を主体の事業母体であるが、平成16年に認知症グループホームを開設し始めた。その一つがこのホームである。それから8年間Iユニットで一人の管理者が良いグループホームに育ててきて、2ユニットにする道筋を立てて定年退職した。平成24年4月2ユニットが開設し、法人内異動と新規採用の職員で、1・2棟が協力し合っ一つホームとして運営と利用者の生活が始まって1年経過したホームを見せてもらった。行事は2つのユニットが合同で催している。職員のスキルアップとケアとサービスの質の向上の為、法人母体は東京のコンサルタントに指導を求め、昨年12月から4ヶ所8つのユニットの管理者を集めて合同の勉強会を開始した。1ヶ月1回のペースで指導や相談を受けている。このサービス評価、行政の指導を併せて受けて、良いグループホームに育つであろう。

2toug

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関に掲げ、人生の先輩である事を忘れずに出来る事はして頂きながらお手伝いをさせて頂くケアを心掛けている。	平成24年4月に2棟の開設に伴い、両棟の理念・運営方針は同一とし、その中で2棟になった様々のメリットを最大限に活かしながら、管理者は情報の共有、意識の統一化、連携の強化をは価値ながら両棟のケアの質の統一にも配慮している。従来の理念を踏まえながら「今を楽しみ、笑顔で過ごしてもらいたい」という共通目標に向かっており、職員が利用者へ暖かく寄り添う姿と、その中で穏やかな表情で過ごす利用者の姿が強く心に残っている。	利用者が楽しく元気で生活するためには、利用者一人ひとりにどのような生活をしてもらうか、本人の心の中を出来るだけ洞察してもらいたい。2つのユニットが協力して笑いのあるホームにして欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と離れた場所に位置している為地域の方との交流は少ないが隣接する施設とのつきあいも交流と考えている	同一敷地内にある身体障害者療養施設、デイサービスケアハウスの同一法人の3つの施設を地域と捉え、連携を強化している。催し物等があれば皆で参加して楽しみ、最大の「さやか祭り」では、町内の人や家族の参加があるので良い交流が出来る。日常では、1棟、2棟間でお茶会に招待し、お付き合いの意義を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の運営推進協議会への参加や又、行事などへの地域の方の参加もあり、理解を得ていると考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況を報告しケアにて困難事例の相談やアドバイスをケアに生かしている。町職員の参加もあり、年6回の開催を実施している	町職員、施設の関係者以外は主に家族が参加している。新任管理者になってからの開催回数も少ないため検討課題が多いのが現状であるが、着実に開催を重ねていき拡大していく事も念頭に置きながら、当面は会議内容の記録のあり方を検討中であると聞いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進協議会にも町職員の参加もありアドバイスを頂く等して関係を築いている	町担当者には運営推進会議の中でよくホームを理解してもらっている。社協や地域包括支援センターとの連携を図り、地域の実態を情報交換していく事が今後の課題であり、ホームに対する理解にもつながっていくものと思います。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在の実施(窓施錠者あり)状況を把握し、状況に応じて御家族とも相談しながら対応	管理者が外部リーダー研修受講後に内部で職員研修会を行い、職員に周知すると共に、内部の身体拘束委員を任命し、内部提起や勉強会を行っている。また、新任職員も多い中で、ヒヤリハット記録には些細な事でも記入し、互いに目通しする事で広義の意味合いから拘束等の意識付け、気付きを養っていかうとする努力がなされていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会実施時、伝達簿の利用をし情報の共有化をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去利用者様(退所者)には成年後見制度の在籍者もあり職員は概ね理解している。又研修にも参加にて資料あり		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の時間を設けている。改定時等は説明し同意を得る等説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会への家族の参加もあり、ご意見箱野設置やケアプラン更新時にはご要望を伺い、運営に反映させている。	毎月の支払日や運営推進会議に於いて意見を求めている。平成22年度の家族に参加してもらう「参観日」のような、画期的事業が継続実施できると更に多くの声が届く機会になると思います。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を求めるがなかなか意見が出ず少しでも提案が出る様に意識付けをしている現状	月1回職員会議を開催し、殆どどの職員が出席している。利用者・身体拘束・親睦会・食材発注の担当制を敷いたことにより、各担当者が専門的視点を持つようになって、積極的な意見がらわされるようになった。手摺の設置や入浴形態の変更等は、職員の意見が反映された実績だそう。今年度中には浴室にリフトが設置される計画もあり、利用者の幸につながる施策が拡がっている実績を見ることが出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面会者や御家族により実績に対し労いの言葉を頂いた事を職員に伝言や職員が少しでも気分転換を図れるよう時間の確保を施行		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修や施設外での研修を受ける機会を設けケアの向上を目指している (23・目標計画達成)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時の交流を利用しサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で利用するに当たり、生活歴、ご要望を伺い御本人・歩家族の意向に添えるようなケアプラン作成に努め、サービスを提供するよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には御家族の思いを伺いケアプランを作成し更新時、状況変化時その都度御家族に報告し連携を図る		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の要望を伺いながら状況に応じて代替えケアの可能性に付いても話し合いケアの向上に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今の一時を大切にし職員と共に役割をもって頂き少しでも楽しみを見つけて頂くようにして頂く		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況の変化等その都度御家族と連絡をとり、受診等の連携を取っている。又ご要望に添える様に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時等次回の面会につながる様な対応を心掛けている	ホーム内では、担当職員と利用者の信頼関係をしっかりと構築し、“この職員が自分の事をしっかり見守ってくれている”という安心感を生んでいる。又、一時帰宅が決まれば、「帰ったら歌の一つでも歌ってあげてえよ」と、日頃から一緒に短歌を歌う等、よろこびを共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を理解し気の合う人同志の席を近づけたり困難な方には職員が関係を築ける様配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後御家族と交流とまではいかないが、利用当時に付いての思い出話等の会話あり		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添える様不穏時の気持ちに添える様傾聴やケアプランでの検討の実施	居室の身で暮らしている利用者の担当職員の話、「目線を合わせて話しかけること、目で訴えてくる事を理解する洞察力、私の服にやたらさわったり、関心を示す時の動きを見逃さない為の細心の気配りにより、本人の思いを受け止めることが出来た」と奥深い話を聞くことが出来た。	ケアマネジメントで一番大切な事は、利用者の今の状態を適格に知る為のアセスメントだろうと思う。アセスメントをするための要素をじっくり探して欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や御家族へ経歴を尋ねたり利用者様との会話の中で把握に努めたりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時のバイタルチェックの実施、入浴時の全身観察や伝達簿等の利用にて状態の早期発見や見逃しの無い様に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族の希望を伺いながら利用者様の向上につながるプラン作成をし、又モニタリングや随時の話し合いをしながら作成している	各種の記録物は介護計画書に連動しており、本人、家族の言葉で記述し、その内容をプランに反映させてある介護計画書であった。モニタリングは管理者と担当職員が行ない、次のプランにつないでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の様子、状態の変化等の記録をし気づきを養いそれを読むことにより情報の共有を図り見直しにつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、御家族と連携を図り柔軟な対応を心掛け、出来る限りのご要望に添える様取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進協議会にて地域との交流に付いての検討をしたり避難訓練等の実施により安全な暮らしや訪問理美容等のサービスの利用をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、御家族と連携を取りながらかかりつけ医との連携を築き、医療を受けられるよう支援する	受診の基本は家族対応とし、出来ない時は職員が対応している。相互の受診結果等の情報交換は受診ノートに記録し、全員が共有し、日常のケアに当たっている。専門医の受診は家族対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の健康管理や状態の変化に応じられる支援を実施し協力医療機関による受診、1/Wの訪問看護体制等を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との連携を図り、病院も相談に応じて下さり早期の入退院も考慮して頂ける関係づくりはある		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに対するマニュアルがあり、入所前の説明時や契約時に御家族には説明をしている	医療的に問題ない場合は、出来る限り慣れたこのホームで過ごしてもらえ対応の方針を持ち、家族には十分理解してもらっている。現在、スマート使用者と寝たきり利用者は、暖かく見守られながら平穩に暮らしておられる様子を見る事が出来た。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備えての勉強会(救急蘇生法)の実施やマニュアルあり		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の作成や隣接する施設との協力体制による年2回の避難訓練の実施	敷地内の3つの施設とは合同訓練を行い、通報装置も連結している。夜間の緊急対応に備え勝手口の鍵を預ける等、相互の連携と協力体制が整っている。スプリンクラーの設置も完了している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に念頭に置き、今を楽しんで頂け様な配慮、本人を傷つけない言葉掛けを心掛けている。	終日、各室で暮らす事をかたくなに主張する利用者の生き方を尊重した支援が何年も続いている。他の利用者に支障をきたさないよう、さり気なく度々訪室する職員の支援で平穩に暮らす事が出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	楽しみや生き甲斐となるような役割を持って頂きその日の気分や体調に合わせ対応を実施		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日でも多く笑顔のある日が過ごせる様な言葉掛けをし希望に添うよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時等衣類の選択や理美容院の利用時の希望等を伺いおしゃれ、衛生面の注意を図る		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食時前のテーブル拭き等の役割を持って頂いたり、1棟・2棟合同の食事会、外での食時や、旬の物の取り入れや、好みの物、希望物の購入や行事等に応じたメニューの提供を心掛けている	各棟それぞれの厨房で、当番職員が利用者の顔を見ながら3食を調理している。「利用者の好みやメニューの重複等に気を付けている」と本日の担当者の話を聞いた。天候を見て、庭に出て、両棟合同で食事会を行ったり、業者のチラシの中から好きな物を注文して楽しむ等、工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取量をチェック表に記録し把握する。毎月の体重測定を参考に体調に応じ提供している。又、不足がちな水分にも季節に応じた温度のものや、細かな声掛け等に留意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア・就寝時の義歯消毒を実施し能力に応じたケアや歯科医による口腔ケアの実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により状態把握し個々にあった方法を考慮し対応・排泄無し時の申し送り等	排泄チェック表に基づいたトイレ誘導により、夜間のみ紙パンツ使用、日中は布パンツで過ごせるよう改善している人も居る。立位不能の車椅子利用者には直接介助を行い、出来るだけ気持ち良い暮らしを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取困難者にはケアプランへの取り入れや個別対応を実施し個々に合わせた提供をして取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	H24.11.1より業務変更となり毎日の入浴、夜間入浴は実施していないが、週3回の入浴、入浴をされない方の全更衣・下清拭を実施	車椅子利用者を浴槽に入れてあげたいと言う職員の要望で、今年度中にはリストの設置が予定されている。入浴形態の変更もリフトの設置も職員の反映であると聞いた。利用者の幸を願う強い思いが十分伝わってきた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良時等その時々に合わせて臥床したり、夜間眠れない利用者様には日中しっかり起きて頂く様声掛けし良眠につながる支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個々のファイルを作成し変化時はその都度伝達簿を利用し申し送りにて理解している又与薬ミスの無い様重複チェックの仕組みを実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生き甲斐楽しみとなるような役割を持って頂いたり好きなテレビ番組を見たりして頂き気分転換を図る		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化により、外出は困難な方も多いため、1棟2棟合同で外にテントを設置し、外での食事を楽しんで頂いたり、2棟の方では11月に紅葉がりに、御家族・職員と出掛けるなど支援している。	ホームは大自然に恵まれた環境の中にあり、暖かくなれば、広い敷地内の散歩で自然を満喫している。日徐湯的には、両棟のお茶飲み会に招待し合い、一寸した外出気分にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別対応にて購入希望により食材買い出し時の購入、所持金よりの支払いもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在利用者様手紙を書く事はあまり無いが御家族の面会をよくあり遠方の御家族とは電話にて連絡をしている又会話困難者には職員が状況報告をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、入浴等、カーテン等で仕切りプライバシーにおいて十分な配慮を行う。又、季節ごとに行事(クリスマス会)等に参加したり、フロアに季節感(飾り・絵)を採りいれている。温度計に注意しながら、温度の管理をする。	ソファと食卓が並列してあり、自分の好みの場所で過ごしている。適温の中でも「寒くない?一枚着ようか、寒くないよ」の会話が耳に入って来た。大型のホワイトボードに行事内容や季節の絵を描いて、季節感を出している。一寸した行事は新設の2棟へ移動し、合同で行うので、日常の暮らしには一寸狭いと感じるリビングのペースは皆が身近に寄り添いあい、却って居心地良い空間となっている様に感じた。	2つのユニットの交流をしっかりとしようと考えていると言う管理者の意気込みを聞いた。利用者の行動が表面に現れるような光景が多く見えるようになると思う。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共に生活し相性の悪い方達がトラブルにならないよう席の配慮や予防に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	曾孫様の写真や予定を書き込むカレンダーの掲示をしたり、レク等で作成した作品を展示するなどしているご自分のタンスの持ち込み等あり	利用者個々に合わせた低床ベッド、寝具、小型整理物入れが備え付けられており、固定ベッド使用者も居る。家族が季節ごとに衣類等の入れ替えを行っているので、全体的に私物は少なくシンプルな居室が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1日中居室対応者の方は、細やかな職員の訪室やホールで過ごす事が多い利用者様の方も職員とのコミュニケーションを第1にいつでも側にいるという安全・安心して頂ける環境づくりを心掛けている。		